

一紅会・歴史研究同好会 第14回「甲州路歴史散策ツアー」行程

催行日 2013年(平成25年)5月26日(日)(雨天催行)
集合 新宿駅西口工学院大学前に 7:45 ◆一紅会の旗を目印にして下さい
出発 同上所 を 8:00 時間厳守
参加者 45名(根津記念館より1人増員して46名)
京王バス 運転士2人の大型観光バス

行程

新宿→首都高・中央自動車道 勝沼IC →9:30国指定有形文化財 山梨市根津記念館
(此处から斉藤由美子様参加。学芸員説明付きで八蔵展示棟より見学) 10:20 →
11:00 甲府市山梨中央銀行金融資料館(中込館長、学芸員説明付き見学、記念写真撮影) 11:50→12:00 母校甲府一高訪問(大村紘一郎氏このみ参加、大西先生の説明付きで見学、記念写真撮影) 12:45→
13:15国指定有形文化財 昭和町風土伝承杉浦醫院(昼食、中野館長説明付き見学、記念写真撮影) 14:45 → 昭和ICより中央道、小淵沢IC →
15:30小淵沢中村キース美術館(藤巻秀彦氏参加、学芸員説明付き観賞見学) →
キースプリング夕食17:00 → 小淵沢IC 中央道 → 双葉IC トイレ休憩、斉藤由美子様下車 → (運転士さん一任でトイレ休憩) → 首都高 → 新宿西口帰着予定20:00
(お疲れ様でした!!)

※諸般の状況都合により予定時間を変更することもあります。また、帰路の渋滞も予想されます。

一紅会・歴史研究同好会 第14回「甲州路歴史散策バスツアー」参加者名簿（敬称略）

催行日：平成25年（2013）5月26日（日）

会費：7,500円

NO	卒業年次	お名前	備考	NO	卒業年次	お名前	備考
1	S38年卒	渡辺 房男	講師	26		雪江 武雄	
2	S30年卒	鮎川ますみ		27	S38年卒	一瀬 明	
3		神田 四郎		28		市橋金之助	
4		神田 信子		29		梅澤 梅子	
5		瀧川さち代		30		新海 行子	
6		呉藤勢津子		31		鈴木 紀子	
7		近藤 文子		32		角田 等	9
8		塩瀬 昭子		33		中澤 喜雄	
9		轟 佐知子		34		祢津 信夫	
10		八木原順子		35		長谷川俊彦	
11		清水 容子		36		矢野 峻行	
12		井上 若子	世話人	37	S39年卒	大木 芳正	
13	S32年卒	雨宮 武		38		斎藤美都子	
14		若尾 和子		39	S40年卒	宇野由美子	
15	S33年卒	飯田富美子		40		深澤 保子	
16		河内 一郎	根津記念館	41		山縣 萩江	
17		五味 一彦		42	S41年卒	山本 秀彦	
18		斎藤由美子	根津記念館	43	S44年卒	杉本 恭子	
19		早川 圭蔵		44		峯川 文江	
20		樋川 絃一		45	S48年 46	西野 公子	
21		三澤千鶴子		46	46	山下 恵子	
22	S34年卒	斉藤 峰子	9	47			
23	S35年卒	作道 恒		48			
24	S36年卒	田村 久夫		49			
25		塚越 洋		50			

○根津記念館から参加の斎藤由美子氏は会費5,500円

- S38年卒 大村絃一郎氏は甲府一高訪問のみ参加
- S40年卒 藤巻秀彦氏はキースプリングのみ参加
- 京王バス運転士 中山正友氏 他の2名 ~~その他~~

※風土伝承杉浦医院での昼食：48名

※キースプリングでの夕食は：49名

国指定有形文化財 山梨市根津記念館

〒405-0032 山梨市正徳寺296 TEL: 0553-21-8250

FAX: 0553-21-8251

近代日本を代表する実業家、甲州財閥の1人でもある根津嘉一郎の実家を保存、活用する施設。

2003年(平成15年)、建物、敷地を所有して来た根津家の子孫が、山梨市に寄贈。

長屋門、主屋、土蔵に加えて、復元した青山荘、茶室、常設展示棟などを整備し、2008年(H20年)10月に開館。

常設展示棟「八蔵」では、初代根津嘉一郎の生涯をパネルで紹介、山梨県下の小学校に寄贈した根津ピアノをはじめ、甲州財閥に関する様々な資料が展示されている。

山梨中央銀行金融資料館

館長(学芸員)中込 力氏 594

〒400-0032 甲府市中央2-11-12 TEL: 055-223-3090

FAX: 055-223-3091

山梨中央銀行創立50周年事業の一環として、1992年(H4年)7月に開館した金融関係資料の展示館。

■山梨中央銀行史・・・山梨中央銀行の歩みを中心とする歴史的文献の紹介

■貨幣史・・・古代から今に至るまでの貨幣現物の展示

甲斐武田氏の貨幣制度(甲州金)

江戸時代の貨幣制度

■「甲州財閥」をテーマ展示

山梨県立甲府第一高等学校

同窓会事務局 大西 勉氏 534 P

〒400-0007 甲府市美咲2-13-44 TEL: 055-253-3525

FAX: 055-253-3527

寛政年間甲府城南の地に設置された甲府学問所を前身とする官学徴典館に淵源する

1880年(明治13年)10月「中学教則」の制定に基き山梨県中学校の師範学校内に併設される

10月23日開校の式典を挙(創立記念日)

1881年(M14年)8月 師範・中学の両校合併、山梨学校と改称

1882年(M15年)10月 徴典館と改称。師範学科、初等中学科を設置

1884年(M17年)7月 始めて徴典館初等中学科から卒業生1人を出す

1887年(M20年)3月 山梨県尋常中学校が発足

1890年(M23年)4月 尋常中学校第一回卒業式挙(行)

1899年(M32年)4月 「中学校令」改正に伴い山梨県中学校と改称

1900年(M33年)4月 甲府城内に新築、移転する。山梨県都留分校を谷村に置く

1901年(M34年)4月 本校分教場内に山梨県第二中学校設置により山梨県第一中学校と改称

更に県立山梨県第一中学校と改める

1906年(M39年)6月 山梨県立甲府中学校と改称する

- 1924年(大正13年)11月 第一回強行遠足を実施する
 1928年(昭和3年)7月 西山梨郡千塚村(現在地)に新校舎竣工、移転する
 1948年(S23年)4月 学制改革のため山梨県立甲府第一高等学校と改称する
 同年 10月 校歌を制定
 1980年(S55年)10月 創立100周年記念式典挙行
 2010年(平成22年)10月 創立130周年記念式典及び記念行事挙行

歴代の主な校長先生

- ① 山梨中学校 (M13、10、23) 綿引 泰 (M13、10、19~14、2、2)
 ② 徽典館 (M15、10、7) 吉田義静 (M17、4、8~20、3、20)
 ③ 第7代 山梨県第一中学校 (M34、4、1) 大島正健 (M34、3、26~大正3、8、31)
 ④ 第10代 県立甲府中学校 (M39、6) 江口俊博 (大正12、6、27~昭和7、3、31)

校是 「教育目標」

「1 高遠な理想のもとに平常の實踐に努める」

Boys be ambitious (少年よ大志を抱け) 大島正健校長が提唱。札幌農学校を去るクラーク博士から大島校長が直接聞いた言葉。

「2 自然の法に遵い人間愛に生きる」

賛天地之化育(天地之化育を賛く) 江口俊博校長が提唱。そのレリーフが本館正面玄関に掲げてある。出典は『中庸』「天地万物の生み育てる力を賛助する」の意。

「3 日に新たに真理を探究する」

苟日新日日新又日新(苟に日に新たに、日日新たに、又日新たなり)
 江口俊博校長が提唱。出典は『大学』殷の湯王が用いた盤(洗面器)の銘文にある。日々の努力を怠らぬように戒めたもの。

Be Gentleman (紳士たれ)

大島正健校長が提唱。本来はクラーク博士が設けた札幌農学校唯一の校則

現在の在校生徒数 全員：824名 (男子：382名、女子：442名)

国指定有形文化財 昭和町風土伝承杉浦醫院 館長 中野良男氏 SF3 P

(杉浦健造・三郎地方病資料館)

〒409-3865 山梨県中巨摩郡昭和町西条新田850-1

TEL・FAX：055-275-1400

甲府盆地を中心に県内に蔓延した地方病(日本住血吸虫症)の研究と治療に生涯を賭けた医師杉浦健造・三郎父子の業績を顕彰し、地方病終息に至る先人の足跡を伝承していくため、昭和町が平成22年に杉浦家の土地、建物を譲り受け杉浦家から総ての収蔵品の寄贈を受けて、地域文化発信拠点として保存、活用していこうと整備を進めて、現在は杉浦父子が治療と研究を続けた病院と庭園等を公開している。約3300平方メートルの敷地内に、大正から昭和にかけて建てられた病院と明治時代建造

の母屋が並立している。「Dr.Sugiura's Office Physician」の英字看板と当時のままの表札「杉浦醫院」が病院玄関に並んでいる。

杉浦家は江戸時代初期からこの地で代々続いた漢方医。健造・三郎は西洋医学を修めた。

8代目健造博士（1866～1933）は、地方病発症地の用水路に共通して宮入貝に似たカワニナが生息するという研究結果を発表し「宮入貝」と「日本住血吸虫」発見の先駆者として著名。

9代目三郎博士（1895～1977）は、動物実験を繰り返し宮入貝を中間宿主にしたセルカリアが皮膚から侵入する感染ルートを突き止めた日本住血吸虫症の世界的権威。

父子を讃える頌徳碑と頌徳歌がある。

小淵沢アートヴィレッジ 中村キース・ヘリング美術館 P

〒408-0044 北杜市小淵沢町10249-7 TEL: 0551-36-8712

「キース・ヘリングの世界～混沌から希望へ～」をテーマにキース・ヘリングのコレクションのみを展示する世界で初めての美術館。キース・ヘリングの貴重な作品を一堂に展示することを目的にするだけでなく、彼が発したメッセージを体感出来る様に、美術館の建物は建築家北川原温の設計で「光と影」を表現した空間を創出している。作品観賞と同時に空間体験を通して、キースの考えた事や人生、彼が駆け抜けた時代に想いを巡らせ「希望」と「夢」そしてエネルギーの感受をコンセプトにしている。

キース・ヘリング (Keith Haring) 1958、5、4～1990、2、16)

アメリカペンシルベニア州レディング生まれ。ストリートアートの先駆者とも呼べる、1980年代アメリカの代表的な芸術家。1980年にニューヨークの地下鉄構内で使用されてない広告掲示板に黒い紙を張り、その上にチョークで絵を描くというサブウェイ・ドローイング活動を始めた。シンプルな線と色でリズムカルに描かれた絵はニューヨークの通勤者の評判になった。シドニー、メルボルン、パリ、アムステルダム、リオデジャネイロなどで壁画を製作して公共空間での活動を多く行った。

ベルリンの壁の有名なチャーリー検問所の壁に絵を描いている。

社会貢献活動も多く、恵まれない子ども達への救援活動、特に自身がHIV感染者だったので作品を通してAIDS感染を防ぐメッセージを出すなど、AIDS撲滅運動に積極的に関わった。

1990年31歳で夭折

ステーキハウスキースプリング

荒川支配人

TEL: 0551-36-5342

●古代（紀元前～7世紀） 貨幣の始まり

大昔の人々は、物々交換によって、お互いに欲しいものを手に入れていました。

しかし、物々交換では、いつも両者の希望がうまく一致するとは限りません。

そこで、穀物や布、砂金、貝殻、玉といった、誰もが欲しがり、しかも分けたり計ったり、運搬や保管するのに便利な品物が交換の仲立ちとして、利用されるようになりました。これが物品貨幣または現物貨幣といわれるものです。

やがて、物品貨幣のなかでも、とくに優れた性質を持つ金、銀、銅が広く使われるようになり、紀元前8世紀ころになると、中国や小アジアなどで、これらの金属を使った貨幣が造られるようになりました。



貝貨



布幣



刀幣

●古代（8世紀～12世紀） わが国初の貨幣

わが国最初の貨幣は、和銅元年（708年）に製造された和同開珎といわれています。中国の進んだ文化や制度を積極的に取入れようとした朝廷は、唐の開元通宝を手本として、この貨幣を造りました。以後、250年の間に、12種類の貨幣を発行しましたが、これをまとめて皇朝十ニ銭といえます。貨幣は、初めはなかなか普及しなかつたため、朝廷は貨幣を貯めた者に冠位を与えたり、役人の給与を貨幣で払うなどして、貨幣の流通に努めました。

しかし、この皇朝銭は改鑄のたびに銭貨の質を低下せたり、新銭1と旧銭10を交換したころなどから、やがて民衆の間に銭離れが起こり、10世紀末には皇朝銭の鑄造が停止され、再び絹などの物品貨幣が使われるようになりました。



和同開珎銀錢



和同開珎銅錢



開元通宝

●中世（12世紀～15世紀） 渡来銭の使用

平安時代も末期（12世紀ごろ）になると、農業や手工業の発達を背景に交易が盛んになり、それによって貨幣の需要が急速に高まってきました。しかし、すでに皇朝銭は発行が停止されていたため、主に日宋貿易を通じて流入した中国銭（宋銭）が、わが国の貨幣として使用されるようになりました。日宋貿易では、わが国は砂金、水銀、硫黄などを輸出し、代わりに大量の宋銭を輸入したのです。

宋銭は、鎌倉時代にも引き続き幕府公認の貨幣として使用されましたが、続く室町時代には、主に明銭も大量に輸入されています。ところが、それでもなお銭貨が不足したため、渡来銭を真似て鑄造した私鑄銭（鋸銭）が大量に造られました。

こうした状態は、江戸時代の初頭まで続きました。



代表的な渡来銭

●近世（15世紀～16世紀） 戦国武将と金銀貨幣

戦国時代に入ると、各地の諸大名による城下町の建設や集市などの商業振興策によって、商工業が飛躍的に発達しました。その結果、高額貨幣の需要が増大し、諸大名によって金銀貨が鑄造され、渡来銭に並存して流通するようになりました。

また、金銀は軍資金としても重要視されたため、諸大名はこぞって金銀山の開発に努め、方々で鉱山の争奪戦を繰り広げるようにもなりました。

こうして金・銀の生産は、最盛期を迎え、多くの金・銀貨が造られていきましたが、これらの殆どは、いずれもその重量によって、交換価値が算出される秤量貨幣でした。



粒状砂金

天然金塊

経薄金

●近現代（明治年代）

幣制の混乱と円の誕生

わが国の近代化を急務とする明治政府にとつて、幣制の整備は差し迫った課題でした。しかし、当初は通貨制度を整備するゆとりはなく、旧幕藩時代の金銀銭貨や藩札などをそのまま通用させる一方、自らも両・分・朱單位の太政官札や民部省札などを発行し、さらには民間の為替会社にも紙幣を発行させるという状態で、幣制は混乱を極めたのです。

政府は明治4年（1871年）新貨条例を制定し、金1.5gを1円とした近代洋式製法による新貨幣を発行して、近代的な貨幣制度を確立しました。円の誕生です。

そして、明治5年、幣制統一の手始めとして、藩札や金札などを整理する目的を以て、明治通宝を発行しました。



民部省札



20円金貨



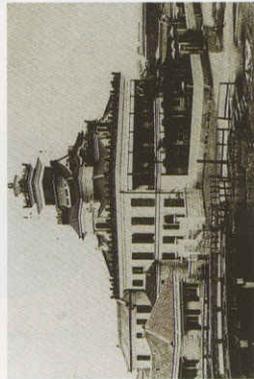
1円銀貨



明治通宝

●近現代（明治年代）

国立銀行と紙幣発行



第一国立銀行 国立銀行条例に基づき、明治6年に創設されたわが国で最初の銀行。



国立銀行券・旧1円

●近現代（明治年代）

日本銀行の設立



日本銀行兌換銀券



日本銀行兌換券

明治10年（1877年）の西南戦争の勃発に伴って、戦費調達のために政府紙幣や国立銀行紙幣が増発されたことなどから、激しいインフレが発生しました。

これは、厳しい財政緊縮と紙幣の回収整理によって収束されましたが、その過程で、兌換銀行券の一元的な発行によって紙幣の乱発を回避し、通貨価値の安定を図ることの必要性が認識され、明治15年（1882年）、中央銀行として日本銀行が設立されました。

日本銀行券は、明治18年（1885年）に銀貨と引換えのできる兌換銀券として、初めて発行されました。ついで、明治30年（1897年）金本位制が採用され、金0.75gを1円とする貨幣法が制定されたことに伴い、金貨と引換えのできる日本銀行兌換券が発行されました。

●近現代（昭和初期）

管理通貨制度への移行



不換紙幣10円



不換紙幣1円

金本位制の下では、日本銀行が発行できる銀行券の総額は、保有する金の範囲内と定められていました。しかし、昭和に入り、軍費を中心に資金需要が増したため、日本銀行が保有する金の量を超えて銀行券を発行する必要が出ました。

昭和6年（1931年）、イギリスが金本位制を離脱したため、わが国も同年12月に金の輸出を禁止し、日本銀行券の兌換は原則として停止されました。

昭和16年（1941年）には、金の保有量に制約されることなく、銀行券が発行できるようになり、その翌年の日本銀行法の制定により法律上も兌換の義務がなくなつて、わが国は名実ともに管理通貨制度へと移行しました。

先人を訪ねて

山梨県のJR中央線山梨市駅から近い万力公園内に、周囲を圧倒するような銅像がそびえ立っている。台座部分は12メートル、銅像部分は5メートル。東武鉄道を中心に30を超える鉄道事業に携わり、「鉄道王」と呼ばれた山梨市出身の実業家・根津嘉一郎（初代）の姿だ。

「台座が高いのは、地元にとってそれだけ偉大で、深く慕われていたことの表れです」。地域おこしのNPO法人「山梨ガバメント協会」（山梨市）理事で、郷土史に詳しい根津和博さん（35）が説明する。

「企業は、国家や社会に本当に寄与しようとする真の目的がなくては栄えるも

根津 嘉一郎（山梨県山梨市）



【交通】根津記念館はJR山梨市駅から徒歩25分、春日居町駅から徒歩20分。中央道勝沼IC、一宮御坂ICからともに車で15分

【周辺】山梨市駅から北西約2キロに、甲府盆地を見下ろせる笛吹川フルーツ公園がある。同公園の夜景は、民間団体から「新日本三大夜景」に選ばれた。その奥の高台にある「ほったらかし温泉」も人気

【名産】ぶどう（巨峰）、桃、さくらんぼ、インブタ、馬刺し

【問い合わせ】根津記念館 ☎0553・21・8250、山梨市観光協会 ☎0553・22・1111

社会に尽くした「鉄道王」

のではない」。嘉一郎を顕彰する「根津記念館」の展示室には、回顧録の一文が掲げられている。企業経営の神髄を言い表したもので、その人生の歩みへと来館者の興味をいざなう。農商業を営む大資産家の後継者と目されながら、東京に出奔して漢学を学ぶな

ど奔放な青年期を送った嘉一郎。やがて政治活動に傾倒し、郡会議員、県議、村長と経歴を重ねていく。だが、県内出身の実業家たちが金融や鉄道などで実績を上げ始めた時期。これら郷土の先輩たちとの交流が後半生の行方を変えた。株の取引にのめり込んだ

嘉一郎を戒めたのが、製粉事業などを手がけた甲州財閥の重鎮・雨宮敬次郎（1846～1911年）だった。「後世に残る事業を志すべきだ」。この助言を胸に、1899年に房総鉄道（千葉県）の取締役につき、初めて鉄道事業に関与。6年後には経営が傾いていた

一方、利根川への架橋や観光地・日光への延伸など、収益が見込める事業には積極的に投資。沿線への工場誘致にも尽力した。鉄道業界で評判を呼び、経営参画を求める声が相次ぎ、活躍の場を関西方面にも広げた。

地元住民の念願だった橋（根津橋）の建設資金を提供するなど、郷里の発展にも情熱を注いだ。山梨大の斎藤康彦教授（65）（近代日本経済史）は「決断力、実行力だけでなく、社会貢献にも取り組む幅広い視野があった」と指摘する。

中央線沿いにある聖徳寺。嘉一郎の遺骨が分納された墓は、電車の車窓からも見えるように立ち、嘉一郎がかかわった企業の関係者が遺徳をしのんで訪れることもあるという。嘉一郎なら、今の厳しい経済情勢をどう乗り切るのだろうか。墓に手を合わせながら、そんな思いが浮かんだ。

東武鉄道の社長になり、本格的に再生に乗り出す。心血を注いだ東武では、無駄な経費をカットする

（甲府支局 野村順）



根津が県内の小学校に贈ったピアノ（根津記念館で）

「迎賓館」が記念館に根津記念館担当の山梨市教委職員、大野慶人さん

もともと実家はこの近くにあり、根津家が1930年代前半に現在地に移転。整備し、嘉一郎の山梨での迎賓館という役割も担って

台座部分は12歳、銅像部分は5歳。東武鉄道を中心に30を超える鉄道事業に携わり、「鉄道王」と呼ばれた山梨市出身の実業家・根津嘉一郎(初代)の姿だ。

「台座が高いのは、地元にとってそれだけ偉大で、深く慕われていたことの表れです」。地域おこしのNPO法人「山梨ガバメント協会」(山梨市)理事で、郷土史に詳しい根津和博さん(35)が説明する。



民家の屋根より高くそびえる根津嘉一郎像(山梨県山梨市で) 宮坂永史撮影

根津 嘉一郎 (山梨県)

社会に尽くした「鉄道王」

「ではない」。嘉一郎を顕彰する「根津記念館」の展示室には、回顧録の一文が掲げられている。企業経営の神髄を言い表したもので、その人生の歩みへと来館者の興味をいざなう。

農商業を営む大資産家の後継ぎと目されながら、東京に出身して漢学を学ぶなど奔放な青年期を送った嘉一郎。やがて政治活動に傾倒し、郡会議員、県議、村長と経歴を重ねていく。

だが、県内出身の実業家たちが金融や鉄道などで実績を上げた始めた時期。これら郷土の先輩たちとの交流が後半生の行方を変えた。株の取引にのめり込んだ

嘉一郎を戒めたのが、製粉事業などを手がけた甲州財閥の重鎮・雨宮敬次郎(1846~1911年)だった。「後世に残る事業を志すべきだ」。この助言を胸に、1899年に房総鉄道(千葉県)の取締役に就き、初めて鉄道事業に関与。6年後には経営が傾いていた中央線沿いにある聖徳寺。嘉一郎の遺骨が分納された墓は、電車の車窓からも見えるように立ち、嘉一郎がかかわった企業の関係者が遺徳をしのんで訪れることもあるという。嘉一郎なら、今の厳しい経済情勢をどう乗り切るのだろうか。墓に手を合わせながら、そんな思いが浮かんだ。

東武鉄道の社長になり、本格的に再生に乗り出す。心血を注いだ東武では、無駄な経費をカットする

もともと実家はこの近くにあり、根津家が1930年代前半に現在地に移転。整備し、嘉一郎の山梨での迎賓館という役割も担っていました。ボイラー設備なども取り入れた「近代和風建築」で、嘉一郎の意向を反映したとされています。



根津が県内の小学校に贈ったピアノ(根津記念館で)

ねづ・かいちろう 1860~1940年。東武グループの創始者。東京電灯(現・東京電力) 監査役を経て、1905年に東武鉄道の社長に就き、企業再生の手腕を発揮した。富国徴兵保険(現・富国生命)、日清製粉など他業界にも幅広く進出し、関与した企業は100を超える。教育事業に力を注ぎ、東京・練馬に旧制武蔵高(現・武蔵大)を創立。美術品収集にも熱心で、没後には東京・青山に「根津美術館」が設立された。衆院議員も連続4期務める。万力公園の銅像は32年、有志3000人の寄付で建設された。

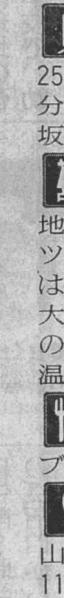
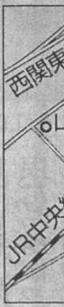
「迎賓館」が記念館に
根津記念館担当の山梨市教委職員、大野慶人さん(28)



根津記念館は2008年10月、山梨市が嘉一郎の実家である根津家居宅跡を改修して開館しました。「長屋門」「旧主屋」などが国登録有形文化財に指定され、館内には富士山を借景にした庭園もありま

す。

4月初旬には、山梨市駅南側に整備された散策道周辺で、桃の花が見頃になりますので、ぜひ記念館と一緒に楽しんでください。



地元住民の念願だった橋(根津橋)の建設資金を提